

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年6月29日(月)～平成27年7月5日(日)【第27週】の感染症発生状況

第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

手足口病の定点当たり患者報告数は7.97人と前週(6.18人)より増加し、例年に比べ高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.00人と前週(6.85人)とほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.76人と前週(4.12人)から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



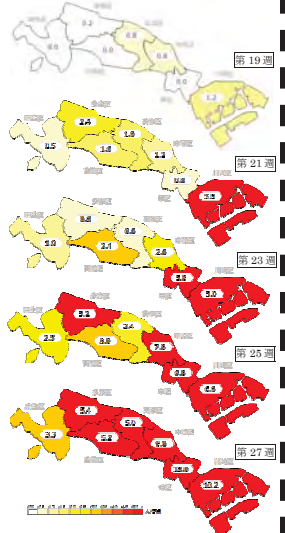
手足口病の流行が広がっています！

川崎市内における手足口病の患者報告数は、8週連続で増加し続けています。

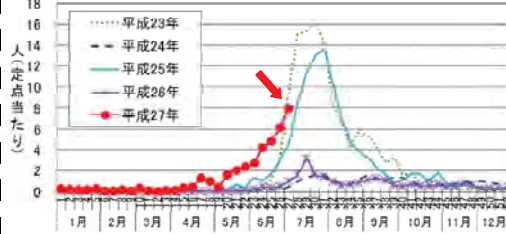
川崎市では第26週(平成27年6月22日～平成27年6月28日)の報告数をもとに流行発生警報を発令したところですが、第27週(平成27年6月29日～平成27年7月5日)もさらに患者報告数が増加し、現在では市内全域に広がっています。

しばらく手足口病の流行が続くことが予想されますので、手洗いなどの予防を徹底してください。

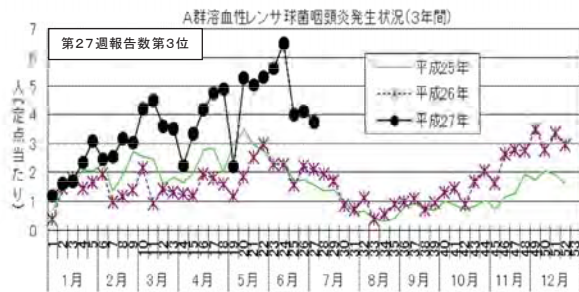
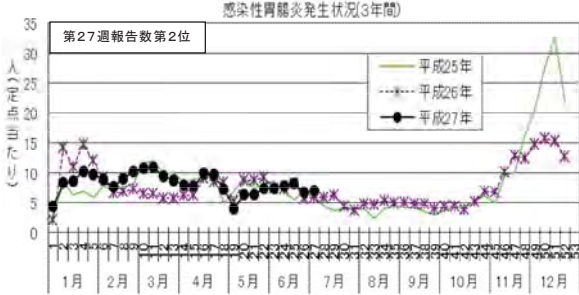
川崎市 手足口病分布マップ



川崎市 手足口流行状況



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年7月6日(月)～平成27年7月12日(日)【第28週】の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は10.85人と前週(7.97人)より増加し、例年に比べ高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.61人と前週(7.00人)とほぼ横ばいですが、例年に比べ高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.27人と前週(3.12人)から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



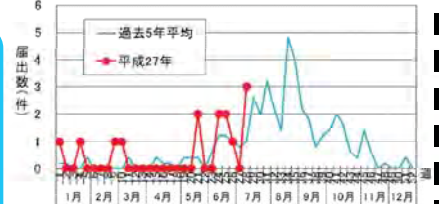
腸管出血性大腸菌感染症に御用心！！

全国的に腸管出血性大腸菌感染症(O157など)の届出数が増加しており、川崎市でも5月下旬以降、計10件の届出がありました。腸管出血性大腸菌は、35～40℃で最も増殖が活発になり、患者数は例年8月頃に最も多くなりますので、注意しましょう。

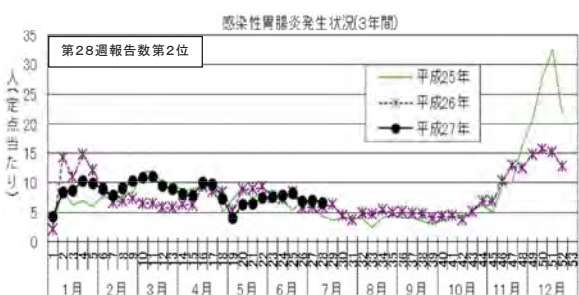
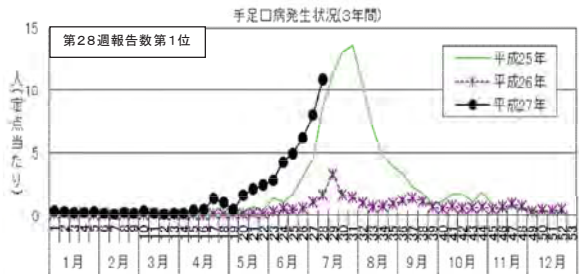
～予防のポイント～

- ① 生野菜などはよく洗い、肉は中心部まで十分加熱(75℃で1分以上)してから食べましょう。
- ② 調理器具は十分に洗浄するとともに、熱湯や塩素系消毒剤で消毒しましょう。
- ③ 調理や食事の前には必ず手を洗いましょう。
- ④ 患者の便が付着した下着等は家族のものとは別に洗濯するなど、取扱いに注意しましょう。

川崎市 腸管出血性大腸菌感染症発生状況



～主な感染経路～



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！



【感染症発生動向調査事業から】

平成27年7月13日（月）～平成27年7月19日（日）〔第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は12.27人と前週（10.85人）からやや増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.42人と前週（6.61人）から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は5.03人と前週（4.27人）からやや増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



手足口病、全区で警報レベル超え

川崎市内の手足口病の患者報告数は、第20週以降10週連続で増加し、全ての区で警報基準値（5人）を上回り、市内全域に流行が広がっています。

手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーウイルスやエンテロウイルスなど様々です。4月以降、川崎市健康安全研究所に搬入された8検体から、コクサッキーウイルスA16（CA16）が6件、コクサッキーウイルスA6（CA6）が2件検出されました。

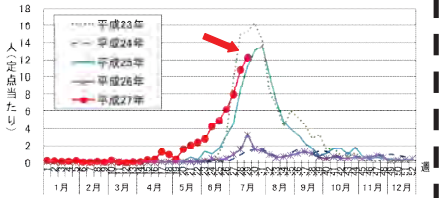
手足口病ってどんな病気？

- **感染経路：**
飛沫感染、接触感染、糞口感染（便中に排泄されたウイルスが口に入って感染）
- **潜伏期間：**3～5日
- **症状：**口の中、手のひら、足や足の裏などに2～3mmの水疱性の発疹が出ます。口の痛みで水分がとれず脱水を起こすことがあります。まれに髄膜炎や脳炎などの合併症を伴うこともあるので、高熱や嘔吐、ぼんやりして意識がはっきりしないなどの症状がある場合にはすぐに医療機関を受診しましょう。



CA6を原因とする手足口病では、典型的な症状と比べて発疹が大きく、身体の大範圍に認められるとともに、治癒後に爪がはがれるなどの報告もあります。

川崎市 手足口病発生状況



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！



【感染症発生動向調査事業から】

平成27年7月20日（月）～平成27年7月26日（日）〔第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)ヘルパンギーナ 3)感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は12.73人と前週（12.27人）からやや増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は5.18人と前週（5.03人）からほぼ横ばいでしたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.06人と前週（5.42人）から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



暑い夏、食中毒にご注意を！！

神奈川県では、気象条件等の分析により食中毒発生の可能性が高まったことから、平成27年7月23日に「食中毒警報」を発令しました。

夏は気温や湿度が高くなり、カンピロバクター、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌や腸管出血性大腸菌などの細菌による食中毒が起こりやすくなりますので、ご注意ください。

食中毒予防の3原則

家庭での食中毒を防ぐには、食中毒予防の3原則「**つけない**」「**増やさない**」「**やっつける**」を実践することが大切です。

つけない

- 十分な手洗いや器具を清潔に保つことが重要です。特に屋外などで調理を行う際には注意しましょう。
- 包丁やまな板は、食材によって使い分けましょう。

増やさない

- 食中毒菌の多くは、10℃以下で増殖がゆっくりとなり、-15℃以下で増殖が停止します。傷みやすすい食品は室温で放置せず、冷蔵庫や冷凍庫で保存しましょう。

やっつける

- 十分な加熱を行うことで、食中毒菌の多くを殺すことができます。目安は、食品の中心温度が75℃で1分以上になるように加熱することです。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！



【感染症発生動向調査事業から】

平成27年7月27日(月)～平成27年8月2日(日)【第31週】の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は11.39人と前週(12.73人)から減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.45人と前週(4.06人)からほぼ横ばいですが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.27人と前週(5.18人)から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？腸管出血性大腸菌感染症

6月以降、川崎市内で腸管出血性大腸菌感染症(O157など)の届出数が増加しており、第31週(7月27日～8月2日)には4件の届出がありました。例年、8月下旬頃に届出数が最も多くなりますので、引き続き注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

腸管出血性大腸菌(O157、O26、O111など)を原因とする感染症です。

感染経路

- ・菌に汚染された食品や、患者の便で汚染された物に触れた手を介して起こる経口感染
- ・感染力が強く、約100個程度の少量の菌数でも感染
(通常、話をしたり、くしゃみ、汗などでは感染しません。)

潜伏期間

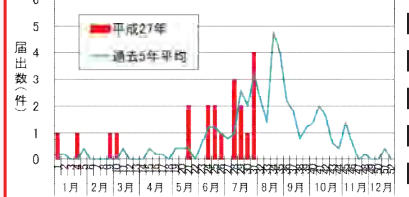
2～14日(平均3～5日間)

主な症状

- ・激しい腹痛、頻回の水様性下痢
- ・発熱は軽度で多くは37℃台
- ・血便とともに重篤な合併症を起こすこともあります。



川崎市の腸管出血性大腸菌感染症発生状況



“子どもや高齢者は要注意！”

子どもや高齢者が感染すると、溶血性尿毒症候群(HUS)や脳症などの合併症を起こしやすいと言われています。
 激しい腹痛や著しい血便、けいれんや意識障害などがみられた際には、直ちに医療機関を受診しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！



【感染症発生動向調査事業から】

平成27年8月3日(月)～平成27年8月9日(日)【第32週】の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は9.28人と前週(11.39人)から減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.34人と前週(4.45人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.03人と前週(4.27人)から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



こんな症状が出たらー帰国後の健康チェックー

海外旅行から帰国した後、何らかの体調不良を訴える方は、比較的多いと言われています。中でも発熱、下痢などの胃腸症状、皮膚の異常はよくみられる症状です。海外旅行後の体調不良には、思わぬ感染症が潜んでいる可能性がありますので、早めに医療機関を受診しましょう。なお、受診にあたっては、症状だけでなく、旅行先を必ず医師に伝えてください。



旅行後の発熱

発展途上国から帰ってきた人では2～3%に発熱がみられると言われています。
 特に、マラリアや Dengue 熱の流行地域から帰国し発熱がみられた際には、必ず医療機関を受診してください。

長引く下痢

海外旅行に行った人の半数以上の方が旅行先で下痢になります。帰国後も下痢が長引いている場合には、医療機関を受診し、適切な治療を受けることが必要です。

発疹などの皮膚の症状

皮膚の異常は、海外旅行で最も頻繁にみられる症状の一つです。発熱も同時にみられる場合、全身の感染症を伴っていることが多いため、速やかに医療機関を受診する必要があります。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年8月10日(月)～平成27年8月16日(日)【第33週】の感染症発生状況

第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は8.64人と前週(9.28人)からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.77人と前週(5.34人)からほぼ横ばいですが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.50人と前週(3.03人)からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。



夏場も油断しないで！ーRSウイルス感染症ー

RSウイルス感染症は、「RSウイルス」を原因とする呼吸器疾患で、ほとんどの乳幼児が2歳までに感染します。

通常の流行は冬場が中心で、例年12月頃にピークをむかえます。ところが、今年は例年を超えるペースで報告数が増加しており、注意が必要です。

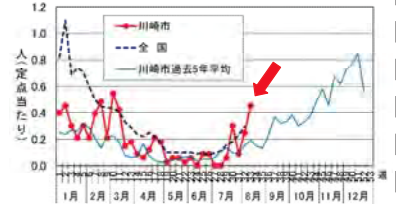
RSウイルス感染症の特徴は？

感染経路：咳や鼻水等による飛沫・接触感染

潜伏期間：3～5日間(平均4日間)

症状：発熱、鼻水、咳などの風邪様症状が数日続く程度で多くは軽症です。ただし、患者の約3割は咳が悪化し、下気道炎を起こして喘鳴、呼吸困難などの症状が出るといわれています。

平成27年RSウイルス感染症発生状況



～こんなお子さんは特に注意！～

心疾患、肺疾患、免疫不全、ダウン症などは、重症化のリスクを高める原因となります。リスクの高い新生児・乳幼児には、感染を予防する方法もありますので、医療機関で御相談ください。



<予防のポイント>

0～1歳児と接する大人は、咳などがある場合はマスクを着用するとともに、日頃から手洗いを徹底しましょう。また、日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールなどで消毒しましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年8月17日(月)～平成27年8月23日(日)【第34週】の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.58人と前週(8.64人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.55人と前週(4.77人)から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.97人と前週(3.50人)から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



侵襲性髄膜炎菌感染症をご存知ですか！？

先日、山口県で開催されたイベントに、海外から参加した複数の参加者が、帰国後に侵襲性髄膜炎菌感染症を発症する事例がありました。本事例に関連する国内での発生はありませんが、わが国では年間20名弱程度、市内では数年に1名程度の発生があり、死亡率の高い(患者の5～10%)疾患です。

侵襲性髄膜炎菌感染症とは？

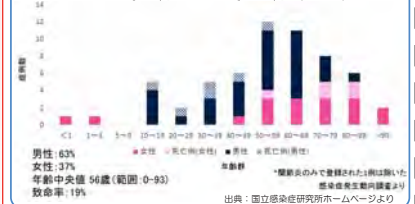
> **感染経路**：患者の咳やくしゃみによるしぶきを吸い込むことによって感染(飛沫感染)します。

> **潜伏期間**：通常3～4日(2～10日)

> **症状**：初期症状は、発熱や頭痛、嘔吐(おうと)など風邪と似ていますが、敗血症や髄膜炎などを起こし、発疹やけいれん、意識障害などが出現することもあります。他の細菌による感染症と比べて、症状が急激に進行するため、注意が必要です。

> **予防方法**：手洗いやマスクなどの他に、患者と接触したことが分かった際、発症前に予防的に抗菌薬を内服する方法もあります。

侵襲性髄膜炎菌感染症患者の性別と年齢の分布
 2013年4月～2014年12月(n=59)



<こんな方は特に注意>

- 患者の**家族**もしくは**濃厚接触者**
- **脾臓摘出後**や**無脾症**の患者
- 流行地域や流行国への**旅行者**
- **寮**に入る**1年目の学生**
- **1歳未満**の乳児と**16～23歳**の若者



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年8月24日（月）～平成27年8月30日（日）【第35週】の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.88人と前週（6.58人）からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.16人と前週（3.55人）からほぼ横ばいですが、例年より低いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.03人と前週（1.97人）からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



知っておきたい感染症～突発性発疹～

突発性発疹は、ヒトヘルペスウイルス6型及び7型に感染することにより、発熱や発疹などが出現する感染症です。生後6か月～1歳までの乳幼児がかりやすく、わが国では、2歳までにほとんどの小児が感染します。

突発性発疹ってどんな病気？

感染経路

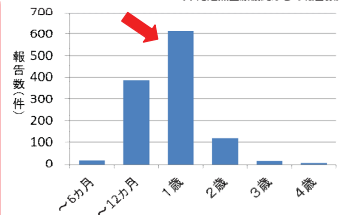
身近な家族など成人の唾液に含まれるウイルスによる感染

潜伏期間：約10日

症状

突然の発熱（38℃以上）がおおむね3日間程度続き、解熱とともに発疹が出現します。発熱時でも比較的元気がよく、食欲もあることが多いですが、熱が高いため熱性けいれんを合併することはよく知られています。特別な予防方法や治療方法はありませんが、発疹は数日以内に消失し、通常予後は良好です。しかし、ときに脳炎などを引き起こすこともあります。

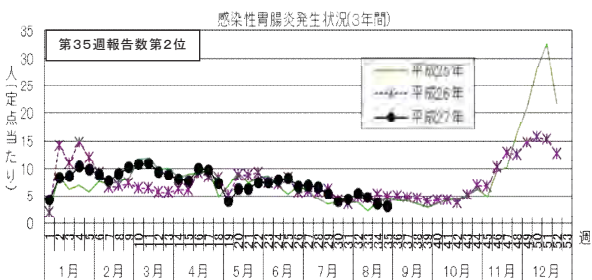
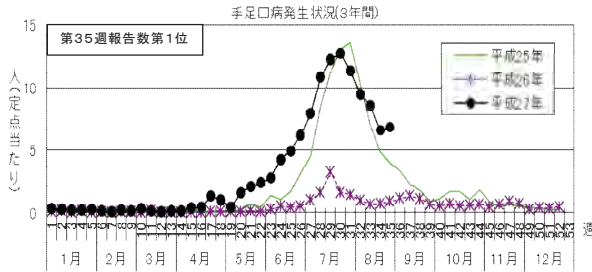
平成26年川崎市突発性発疹年齢別発生状況
（市内定点医療機関からの報告数）



生後半年程度は、母親からの免疫により守られていますが、その後は感染のリスクが高まります。
 突発性発疹は、生後初めての高熱の原因になることが多いと言われています。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
 （問い合わせ先） 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年8月31日（月）～平成27年9月6日（日）【第36週】の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は5.73人と前週（6.88人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.82人と前週（3.16人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.48人と前週（2.03人）から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



今年の冬はノロウイルスにご注意！

ノロウイルスは、冬季の感染性胃腸炎の主な原因であり、変異しやすいウイルスです。川崎市健康安全研究所では、昨年3月に新たなタイプのノロウイルス（GII.17 変異株）を発見し、今年1月頃から同ウイルスの検出数が増加していることを確認しています。

今後、新たなタイプのノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行した場合、ほとんどの人が免疫を持っていないため、大きな流行となる可能性があります。

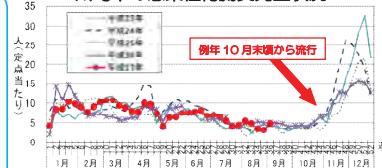
ノロウイルス「GII.17」とは？

これまで主に確認されてきたノロウイルスのタイプは「GII.4」でしたが、昨シーズンから全国的に「GII.17」の検出数が増え始めました。

すでに「GII.4」に対する免疫を持っている方でも、「GII.17」に対してはその免疫が効かないため、多くの方が感染する可能性があります。

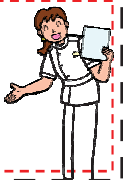
今年の冬は特に、ノロウイルスの流行状況に注意するとともに、予防対策を徹底してください。

川崎市の感染性胃腸炎発生状況

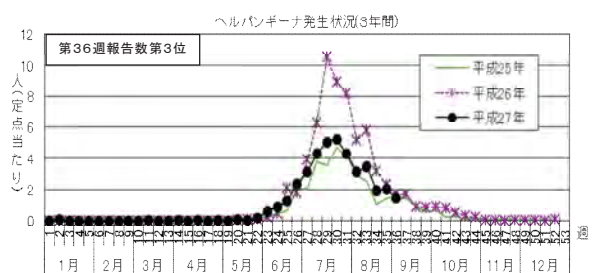
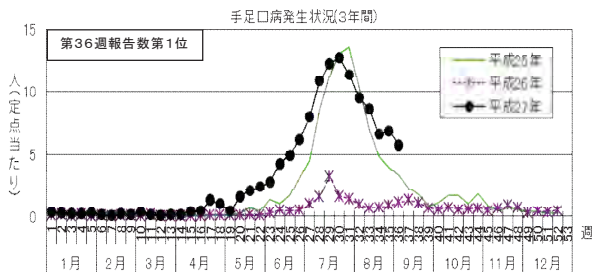


<予防のポイント>

- こまめな手洗い
- 患者の便やおう吐物の適切な処理・消毒
- 食品の十分な加熱



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
 （問い合わせ先） 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年9月7日(月)～平成27年9月13日(日)【第37週】の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.42人と前週(5.73人)からやや増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.03人と前週(4.82人)からやや減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.06人と前週(1.45人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

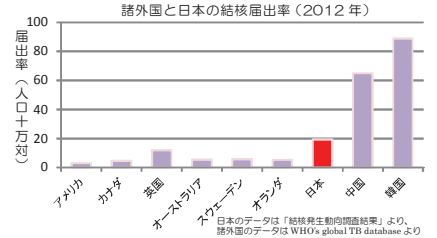


「結核」知って予防。早めの受診。～結核予防週間～

平成27年9月24日から9月30日は結核予防週間です。

結核は、結核菌によって発生する感染症で、わが国は結核罹患率が高いため、世界の中では依然「中まん延国」とされています。また、都市部での結核罹患率は高く、川崎市も全国に比べて高い状況です。

結核を知ることが予防への第一歩です。早期発見・早期治療はご本人の重症化を防ぐだけでなく、大切な家族や職場等への感染拡大を防ぐためにも重要です。



こんなときは医療機関へ！！

結核の初期症状は風邪とよく似ています。次のような症状が続く場合には、結核を疑って早めに医療機関を受診してください。

- ① 咳が2週間以上続く
- ② 痰(たん)が出る
- ③ 体がだるい
- ④ 微熱が続いている

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年9月14日(月)～9月20日(日)【第38週】及び9月21日(月)～9月27日(日)【第39週】の感染症発生状況

第38週・第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 第38週は、手足口病の定点当たり患者報告数が7.15人と前週(6.42人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 第39週はシルバーウィークと重なり、多くの医療機関が休診であったため、全体的に患者報告数が少ない状況となっています。今後の発生動向には注意する必要があります。



高齢者インフルエンザ予防接種事業が始まります！

～高齢者の方はインフルエンザ予防接種を公費で受けられます。(一部自己負担あり)～



高齢者インフルエンザ予防接種事業の対象者(次の3つを全て満たす方)

- 川崎市内にお住まいの方
- 接種日に満65歳以上の方、若しくは満60～64歳で次の※に該当する方
 ※心臓病、腎臓病、呼吸器の機能障害又はHIVによる免疫機能障害のある方(障害1級程度)
- 接種を受けようとするご本人が接種を希望していること

※インフルエンザの予防接種は接種を受ける法律上の義務はありません。

実施期間と回数

平成27年10月1日から12月31日の間に1回

自己負担金

2,300円(接種を受けた医療機関にお支払い下さい)

ただし、次の①～③のいずれかに該当する方は接種費用が無料になりますので、接種を受ける前にお問い合わせ下さい。

- ①生活保護世帯に属する方
- ②市・県民税非課税世帯(世帯全員が非課税)に属する方
- ③中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく支援給付を受けている方

接種を受けられる場所

川崎市予防接種個別協力医療機関(市内約600施設)

※保健福祉センター(保健所)では受けられません。

4価ワクチンに変わりました！

- A型株 A/カリフォルニア/7/2009(X-179A)(H1N1)pdm09
- A/スイス/9715293/2013(N1B-88)(H3N2)
- B型株 B/フーケット/3073/2013(山形系統)
- B/テキサス/2/2013(ビクトリア系統)

川崎市内基幹定点病院においてインフルエンザで入院した患者数(平成24年以降)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 健康安全研究所: 044-276-8250 (高齢者インフルエンザ予防接種事業に関するものを除く)
 ※高齢者インフルエンザ予防接種事業に関することは各区役所保健福祉センター地域保健課へご連絡ください。

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年9月28日(月)～平成27年10月4日(日)【第40週】の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.82人と前週(1.94人)からやや増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は3.12人と前週(3.09人)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.36人と前週(1.21人)からやや増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



気をつけたい感染症～マイコプラズマ肺炎～

マイコプラズマ肺炎は、1年を通じてみられ、冬にやや増加する呼吸器感染症です。例年、報告される患者の約80%は14歳以下ですが、成人の報告もみられます。

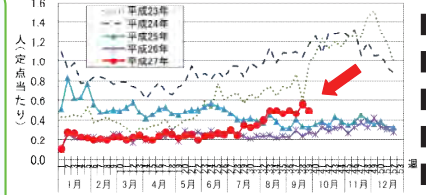
今年は全国的に、8月以降の患者報告数が増加傾向にあり、過去10年間の比較でも、平成23年及び平成24年に次ぐ勢いです。川崎市でも数は少ないものの、増加がみられます。



マイコプラズマ肺炎の特徴は？

- 感染経路:** 飛沫感染・接触感染
- 潜伏期間:** 2～3週間程度
- 症状:** 発熱や全身倦怠感(だるさ)、頭痛、咳などの症状がみられます。咳は解熱後も3～4週間程続くのが特徴です。
- 気をつけたいこと:** 多くは軽い症状だけで自然に治りますが、一部の人は重症肺炎となることもあります。合併症として、中耳炎、無菌性髄膜炎の他、心筋炎、関節炎など多彩なものがあります。

全国のマイコプラズマ肺炎発生状況

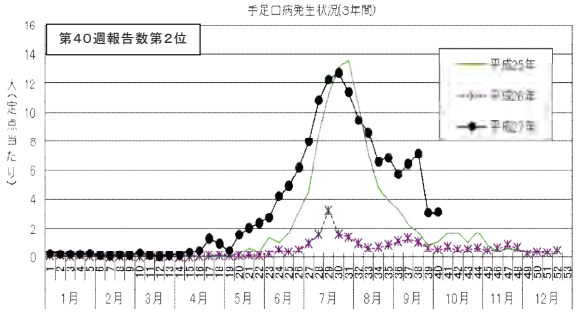
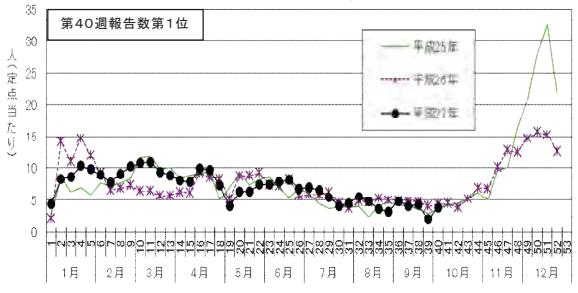


<予防のポイント>

感染経路はかぜやインフルエンザと同じです。手洗いを徹底するとともに、咳がある場合には、マスクを着用するなど咳エチケットを守りましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年10月5日(月)～平成27年10月11日(日)【第41週】の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.45人と前週(3.82人)からやや増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.97人と前週(2.36人)からやや増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は2.12人と前週(3.12人)から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



RSウイルス感染症にご注意ください！

第41週におけるRSウイルス感染症の患者報告数が定点当たり1.27人となり、例年と比べて大きく増加しています。

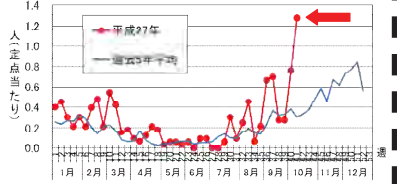
RSウイルス感染症は、例年12月下旬に流行のピークをむかえます。今後も患者数はさらに増加すると推測されます。



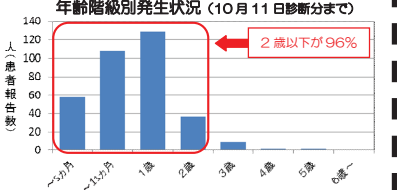
RSウイルス感染症の特徴は？

- 感染経路:** 咳や鼻水による飛沫・接触感染
- 潜伏期間:** 2～8日間(平均4～6日間)
- 好発年齢:** 生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児が感染を経験
- 症状:** 発熱、鼻水、咳などの風邪様症状が数日続く程度で多くは軽症。ただし、患者の2～3割は咳が悪化し、肺炎などの下気道炎を起こし、呼吸困難などの症状が出る。

川崎市のRSウイルス感染症発生状況



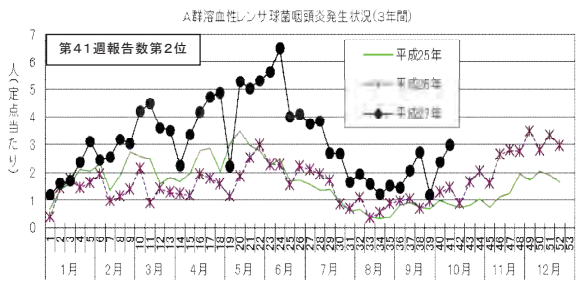
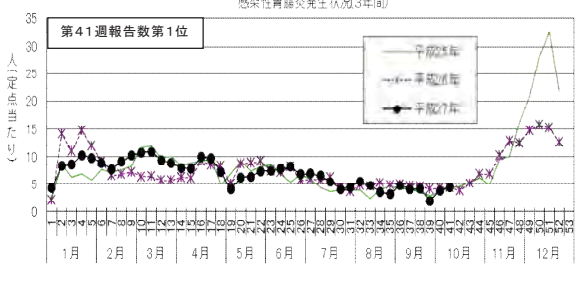
平成27年 川崎市のRSウイルス感染症年齢階級別発生状況(10月11日診断分まで)



～こんなお子さんは特に注意～

早産児、心疾患、肺疾患、免疫不全、ダウン症などは、重症化のリスクを高める原因となります。リスクの高い乳幼児には感染を予防する方法もありますので、医療機関で御相談ください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年10月12日(月)～平成27年10月18日(日)【第42週】の感染症発生状況

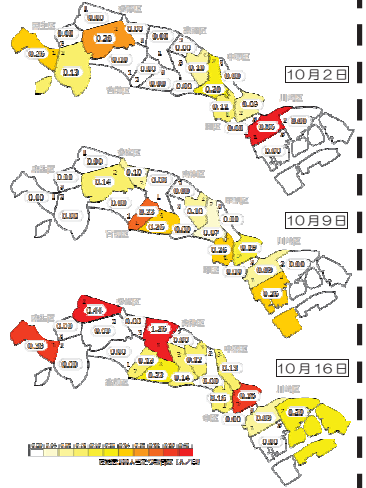
第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)手足口病でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.67人と前週(4.45人)からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.82人と前週(2.97人)からやや減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は0.88人と前週(2.12人)から減少しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎の流行にご注意ください！

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などを原因とする感染症で、嘔気や嘔吐・下痢や腹痛などの症状があらわれます。
 学校・保育園等欠席者サーベイランスによると、嘔気や嘔吐がみられる保育園児数は10月以降徐々に増加しています。例年、11月に入ると患者数がさらに増加しますので、冬に向けて早めに予防対策を見直しましょう。

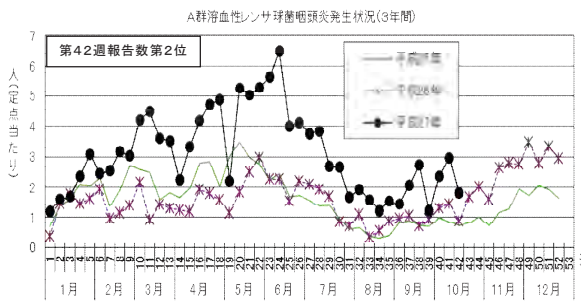
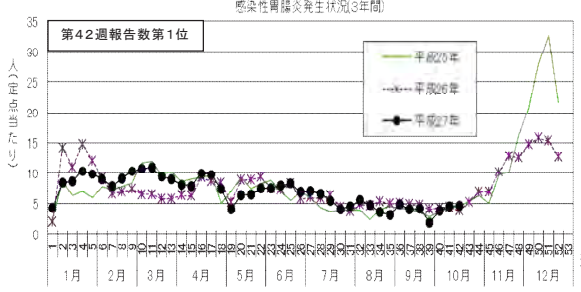
学校・保育園等欠席者サーベイランス情報
 【嘔気・嘔吐を認めた保育園児報告数*】
※在籍者100人当たり (平成27年10月20日15:00時点)



～予防のポイント～

- ①手洗いの徹底**
 日頃からこまめに手を洗いましょう。
- ②便や吐物の適切な処理**
 患者の便や吐物は適切に処理し、衣類や床などが汚染された場合は消毒しましょう。
- ③十分な加熱**
 食品は中心部まで十分な加熱(85～90℃で90秒以上)しましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年10月19日(月)～平成27年10月25日(日)【第43週】の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)RSウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.48人と前週(4.67人)から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.21人と前週(1.82人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.06人と前週(0.76人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

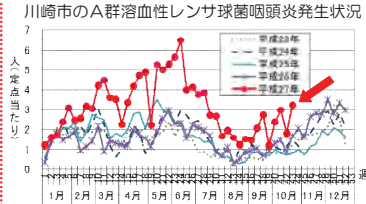


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者が再び増加しています

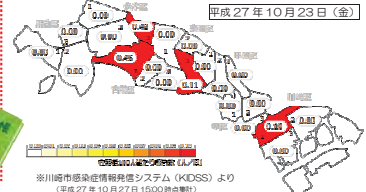
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年、冬から初夏にかけて緩やかなピークを描いて患者数が増加します。今年は、4月以降過去最多の患者報告が続いており、夏には一時的に減少しましたが、9月以降再び増加傾向がみられます。冬にかけて、インフルエンザ等と同様に注意が必要になりそうです。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

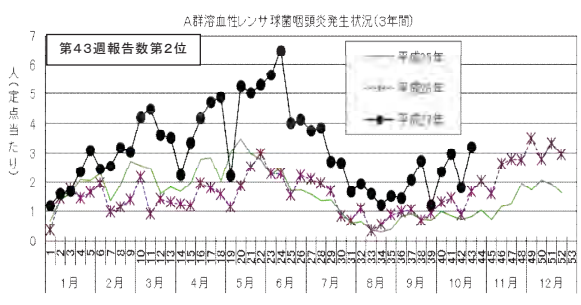
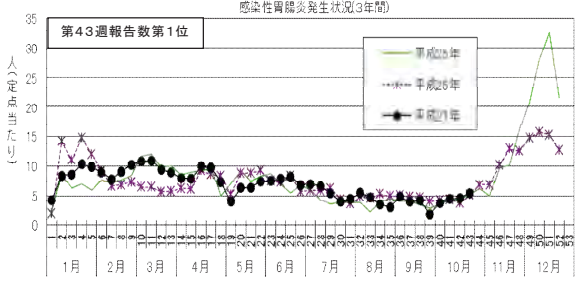
感染経路: 唾液や鼻水への接触・飛沫感染
潜伏期間: 2～5日
好発年齢: 就学前後(4～7歳)の小児
症状: 突然の発熱(38℃程度)、倦怠感、咽頭痛から始まります。体や手足に小さくて紅い点状の発疹が出たり、舌がイチゴのように赤くポツポツした状態(莓舌)になることもあります。
治療方法: 治療には抗菌薬が有効です。早めに医療機関で診断を受けて、主治医の指示とおりに薬を飲みましょう。



学校・保育園等欠席者サーベイランス情報
 【溶連菌感染症と診断された保育園児報告数*】
※在籍者100人当たり 平成27年10月23日(金)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年10月26日(月)～平成27年11月1日(日)【第44週】の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) RSウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.58人と前週(5.48人)から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.06人と前週(3.21人)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.27人と前週(1.06人)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



～冬の感染性胃腸炎の流行に備えて～



感染性胃腸炎は細菌やウイルスなどが原因で起こり、主に下痢やおう吐などの症状がでる感染症です。カンピロバクターやサルモネラなどの細菌、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスが主な原因微生物です。秋から冬にかけては主にノロウイルスを原因とする胃腸炎が流行し始めます。

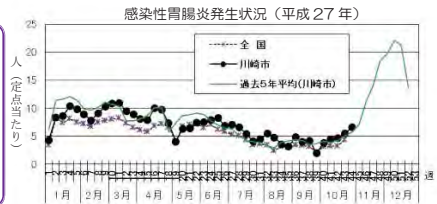
予防対策

主に接触、飛沫感染のため、こまめな手洗いが重要です。また、患者の便やおう吐物を適正に処理し、必要に応じて家庭用塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)等で消毒してください。

感染してしまったら・・・

頻回の下痢やおう吐により、体内の水分を多く失いますので、水分補給に努めましょう。また、細菌が原因の胃腸炎の場合は、抗菌薬の投与が必要なこともあります。

ノロウイルス(GII.17 変異株)に注意しましょう！
 2015年1月以降、新たなタイプのノロウイルス(GII.17 変異株)の検出例が増えています。ほとんどの人が免疫を持っていないため、流行が大きくなる可能性があるため注意が必要です。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年11月2日(月)～平成27年11月8日(日)【第45週】の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) RSウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.45人と前週(6.58人)からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.70人と前週(3.06人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.88人と前週(1.27人)からやや減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。



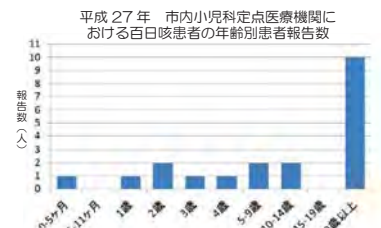
知っておきたい感染症～百日咳～

百日咳は、特有のとまりにくい咳発作を特徴とする急性気道感染症です。乳幼児は特に重症化しやすいといわれていますが、成人では咳が長期に渡って持続するものの、特有の発作性の咳が出ることなく回復します。しかし、軽症でも菌が排出され、ワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源となりやすいので注意が必要です。

百日咳ってどんな病気？

- 感染経路：接触または飛沫感染
- 潜伏期間：7～10日
- 症状：かぜ症状で始まり、咳が激しくなるカタル期の後、短く激しい咳が連続して起こり、笛の音のような音が出る咳発作を繰り返す痙攣期を経て回復します。全経過が3ヶ月(おおむね100日程度)であることから百日咳と言われています。
- 治療方法：適切な抗菌薬での治療により、服用開始から5日後には菌はほぼ陰性となります。

➢ 予防方法
 百日咳を含むワクチンの接種が有効ですが、一般的な咳エチケットも大変重要です。



百日咳は、母親からの免疫が期待できないため、乳児期早期から罹患します。
 ワクチン未接種の場合、1歳以下の乳児(特に生後6ヶ月以下)では死に至る危険性が高い感染症です。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年11月9日(月)～平成27年11月15日(日)【第46週】の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は9.09人と前週(6.45人)から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.39人と前週(2.70人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 水痘の定点当たり患者報告数は1.24人と前週(0.39人)から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



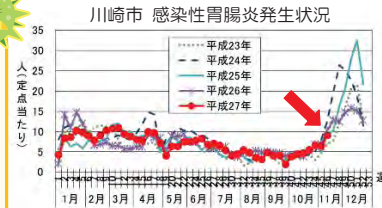
「ノロウイルス食中毒警戒情報」発令中！！

神奈川県では、平成27年11月2日(月曜日)に、「ノロウイルス食中毒警戒情報」が発令されました。

ノロウイルスは、特に冬期において、下痢やおう吐などの症状が出る「感染性胃腸炎」の主な原因となり、大規模な食中毒を引き起こすこともあるため、予防の徹底が大切です。

食中毒予防のポイント

- ①食事や調理の前、トイレの後などは、**必ず手を洗いましょう。**
- ②おう吐物等は適切に処理し、感染を広げないようにしましょう。
- ③加熱が必要な食品は、**中心部までしっかり加熱(85～90℃で90秒以上)して食べましょう。**
- ④包丁、まな板、ふきん等の調理器具等は、使用後に**洗浄、殺菌**をしましょう。
- ⑤下痢やおう吐等がある場合は、**食品を直接取り扱う作業は控えましょう。**



感染性胃腸炎患者は、例年、11月頃から年末にかけて増加します。
 一人一人が予防を徹底し、「感染しない・感染させない」心がけを持つことが大切です。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年11月16日(月)～平成27年11月22日(日)【第47週】の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)RSウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は10.97人と前週(9.09人)からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.19人と前週(3.39人)からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.16人と前週(0.64人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



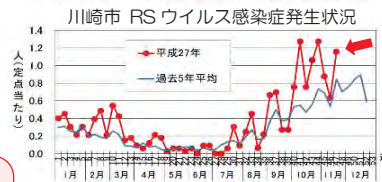
冬に向けて流行する呼吸器感染症にご注意を！！

例年、冬に向けて、「**インフルエンザ**」や「**RSウイルス感染症**」の患者報告数が増加します。

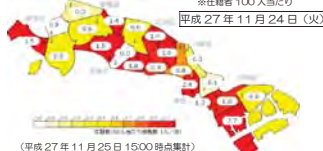
近隣の東京都や横浜市では、すでにインフルエンザによる学級閉鎖が報告されており、市内におけるRSウイルス感染症の報告数は例年より多くなっています。さらに、市内の保育園では、咳や鼻水などの急性呼吸器症状による欠席者数も増加してきました。

～呼吸器感染症予防のポイント～

インフルエンザやRSウイルス感染症は患者の飛沫(咳やくしゃみなどのしぶき)を介して感染します。**日頃から手洗いを徹底し、咳エチケット(マスクの着用など)を心がけるとともに、インフルエンザなどは流行前に**予防接種**を受けることも大切です。**



学校・保育園等欠席者サーベイランス情報
 【急性呼吸器症状がある保育園児報告数*】
※在籍者100人当たり
 平成27年11月24日(水)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年11月23日(月)～平成27年11月29日(日)〔第48週〕の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は10.52人と前週(10.73人)からほぼ横ばいですが、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.79人と前週(3.15人)からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 水痘の定点当たり患者報告数は1.33人と前週(0.76人)からやや増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)にご注意ください！

流行性耳下腺炎は、一般に「おたふくかぜ」とも呼ばれており、ムンプスウイルスを原因とする感染症です。

この数年目立った流行はありませんでしたが、今年は全国的に、1月以降の患者報告数が徐々に増えています。川崎市においても、10月下旬以降増加がみられますので、今後の動向に注意が必要です。

流行性耳下腺炎ってどんな病気？

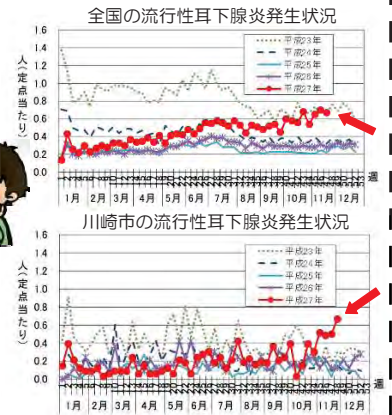
感染経路: 唾液などの接触・飛沫感染

潜伏期間: 通常16日～18日

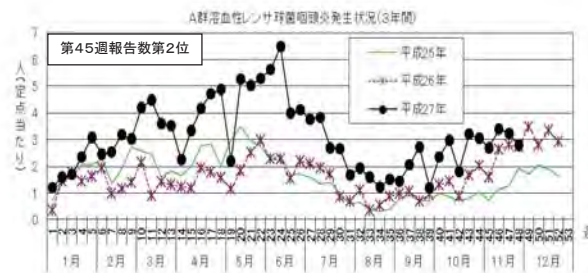
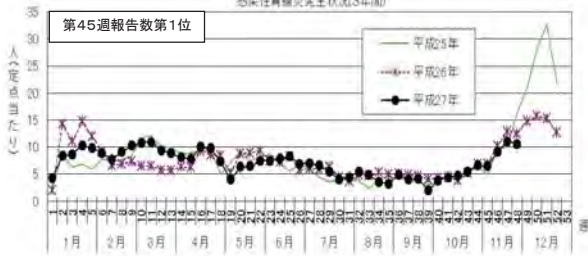
好発年齢: 3～6歳の小児

症状: 主に、両側又は片側のほおの腫れや痛み、発熱などがみられますが、感染しても症状が出ない方(不顕性感染)も3割程度いるとされています。

経過: 基本的には軽症のまま治癒しますが、合併症として、髄膜炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴などを発症することもあり、妊婦が感染すると自然流産することもあります。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年11月30日(月)～平成27年12月6日(日)〔第49週〕の感染症発生状況

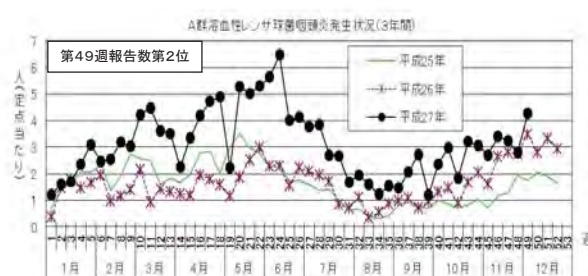
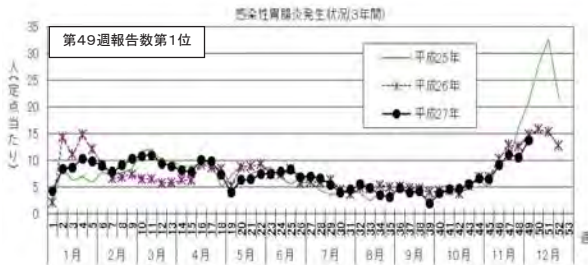
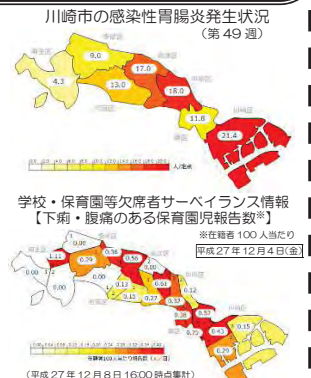
第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は14.13人と前週(10.52人)から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.41人と前週(2.79人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 水痘の定点当たり患者報告数は1.31人と前週(1.33人)からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎の流行にご注意ください！！

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などが原因で、下痢やおう吐などの症状が出る感染症です。例年12月中旬頃に流行のピークをむかえますが、川崎区では、第49週(11月30日～12月6日)の定点当たり患者報告数が21.40人と流行警報基準値(20人)を超えており、また、市内の複数の保育園では、集団発生も報告されています。

食器やドアノブ、患者のおう吐物の消毒など、予防対策を徹底することが大切です。



塩素液の作り方	食器、ドアノブなどの消毒 (200ppmの濃度の塩素液)		おう吐物廃棄時の消毒 (1,000ppmの濃度の塩素液)	
	製品の濃度	液の量	液の量	水の量
12% (一般的な業務用)	5ml	3L	2.5ml	3L
6% (一般的な家庭用)	10ml	3L	5.0ml	3L
1%	60ml	3L	30.0ml	3L

- ▶ 製品ごとに濃度が異なるので表示をしっかりと確認し、使用期限内のものを使用してください。
- ▶ 時間が経つと濃度が下がるので、作り置きしないようにしましょう。
- ▶ おう吐物などの酸性のものに直接原液をかけると、有毒ガスが発生することがありますので、必ず「使用上の注意」をよく確認してから使用してください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年12月7日(月)～平成27年12月13日(日)【第50週】の感染症発生状況

第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) RSウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は19.06人と前週(13.76人)から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.31人と前週(4.30人)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.19人と前週(1.18人)からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

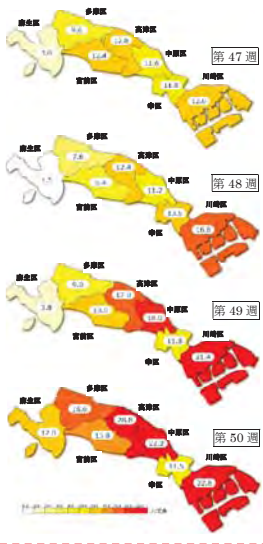


警報基準値はもう目前！！～感染性胃腸炎の流行～

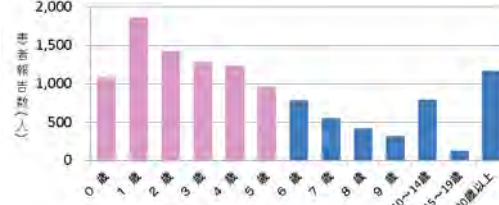
川崎市では、第50週における感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数が19.06人となりました。特に、川崎区、中原区、高津区では、すでに警報基準値(定点当たり20人)を超えています。

全国的にも報告数は増えており、感染性胃腸炎の主要な原因であるノロウイルスの集団感染事例なども報告されています。市内では、保育園や幼稚園に通う年齢層のお子さんが多くを占めています。

川崎市 感染性胃腸炎分布マップ

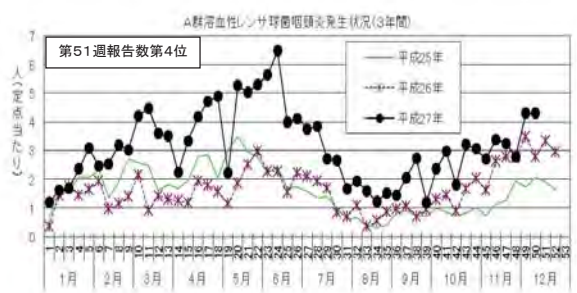
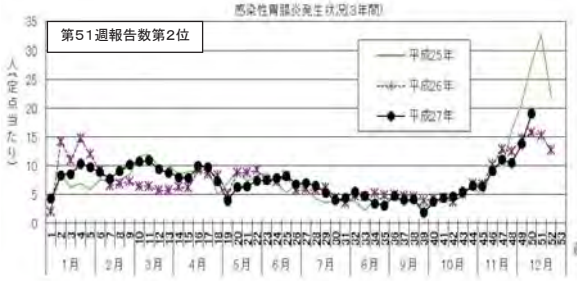


H27年 川崎市 感染性胃腸炎年齢群別発生状況



※消毒液の作り方は、第49週の「今、何の病気が流行しているか！」に掲載していますので、参考にしてください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年12月14日(月)～平成27年12月20日(日)【第51週】の感染症発生状況

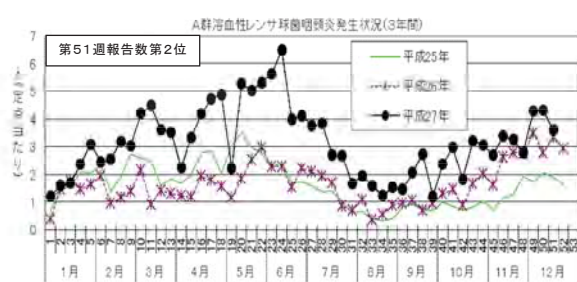
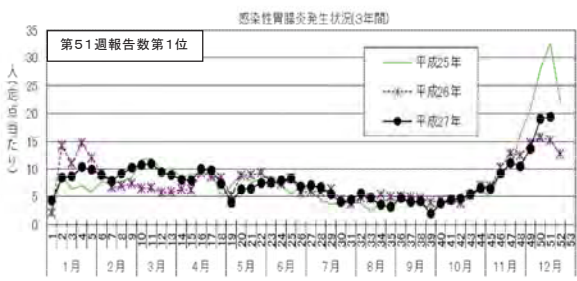
第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は19.39人と前週(19.06人)からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.61人と前週(4.31人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 水痘の定点当たり患者報告数は1.24人と前週(1.03人)からやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



油断は禁物！～麻しん(はしか)にもご注意を～

川崎市では、第50週(平成27年12月7日～13日)に麻しん患者が1名報告されました。平成27年3月、世界保健機関(WHO)により、日本は「麻しんの排除状態」と認定されましたが、海外からの持ち込みを中心に、少数ながらもまだに麻しん患者は報告されています。

引き続き、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)の定期予防接種対象者は、忘れずに接種を受けましょう。



麻しん(はしか)ってどんな感染症？

感染経路: 空気感染、飛沫感染、接触感染
潜伏期間: 10～12日(最長21日程度)
症状: 発熱、咳、鼻水など風邪のような症状で始まり、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。
 肺炎や中耳炎を合併しやすく、脳炎など重篤な疾患を併発することもあります。
治療・予防: 対症療法が中心となり、ワクチンによる予防が最も重要です。

麻しん・風しん(MRワクチン)予防接種！

定期予防接種対象者
 第1期 接種日が生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
 第2期 接種日が小学校入学前の1年間(4月1日～翌年3月31日)

接種回数
 第1期及び第2期ともに1回

接種場所
 市内約300施設の医療機関で受けることができます。

自己負担金
 なし(無料)

※詳細は、お住まいの区役所保健福祉センター(保健所)地域保健福祉課にお問い合わせください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 健康安全研究所 044-276-8250 (麻しん風しん(MRワクチン)予防接種に関することを除く)
 ※麻しん風しん(MRワクチン)予防接種に関することは各区役所保健福祉センター地域保健福祉課へ御連絡ください。

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年12月21日(月)～12月27日(日)【第52週】及び平成27年12月28日(月)～平成28年1月3日(日)【第53週】の感染症発生状況

第52週及び第53週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。

第52週は、インフルエンザの定点当たり患者報告数が1.13人となり、流行開始の目安である1.00人を超えました。インフルエンザの流行シーズンに入ったと考えられます。

第53週は年末年始の連休と重なり、多くの医療機関が休診であったため、全体的に患者報告数が少ない状況となっています。

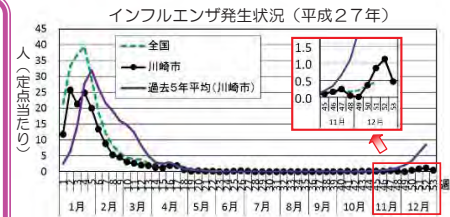


～インフルエンザ流行シーズン開始！～

インフルエンザは冬季に流行する代表的な呼吸器感染症で、例年12月頃から流行が始まります。今年は、例年と比べ流行開始が遅れ、第52週(平成27年12月21日～12月27日)に定点当たり患者報告数が1.13人となり、流行開始の目安である1.00人を超えました。今後、学校などで集団生活が始まるとインフルエンザに感染する機会が増えますので、予防対策を心がけましょう。

～インフルエンザについて～

- 〈潜伏期間〉 1～3日
- 〈感染経路〉 飛沫、接触感染
- 〈症状〉 突然の高熱、咽頭痛、頭痛、筋肉痛、倦怠感などで始まり、呼吸器症状が目立ってきます。また、消化器症状を伴うこともあります。
- 〈合併症〉
 - ・一般的な合併症として中耳炎、肺炎、気管支炎など
 - ・中枢神経合併症として熱性けいれんや脳症など
- 〈治療〉 症状に合わせて、抗インフルエンザ薬や解熱剤(アセトアミノフェンなど)を使用します。
- 〈予防方法〉 マスクの着用、手洗い、ワクチン接種が有効です。



咳エチケットを忘れずに！
咳が出るときはマスクをしましょう。
咳やくしゃみをするときは、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、ウイルス等が飛散しないように心がけましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

川崎市感染症情報センター事業報告書

2017年2月発行

川崎市健康安全研究所 感染症情報センター担当

〒210-0821

川崎市川崎区殿町3-25-13 川崎生命科学・環境研究センター2階

TEL 044-276-8641 FAX 044-288-2044

E-mail : 40eiken@city.kawasaki.jp

